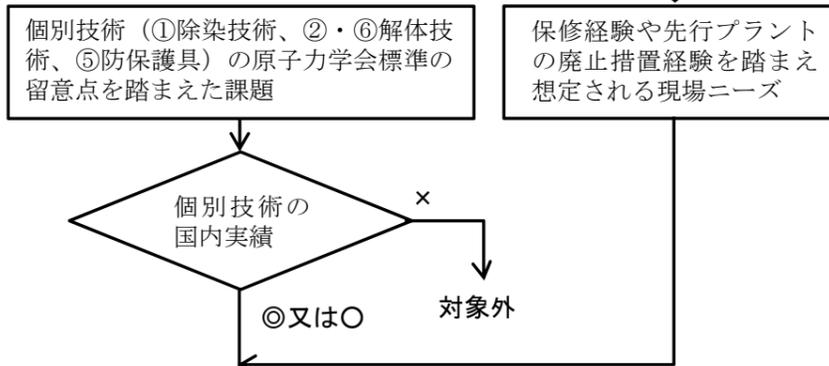


廃止措置研究に係る愛媛大学、愛媛県内企業の保有技術とのマッチングおよび研究テーマ選定フロー

**2 先行プラント等の調査結果に基づく課題やニーズを追加**

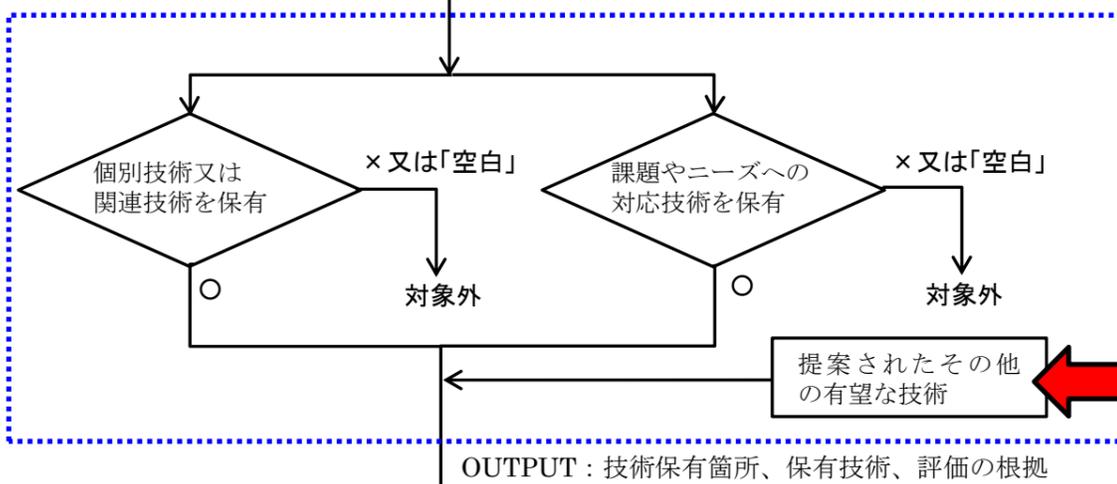
【対象とする技術の選別】



平成 28 年度第 1 回 伊方発電所 廃止措置研究に係る検討会の資料-6, 7 参照

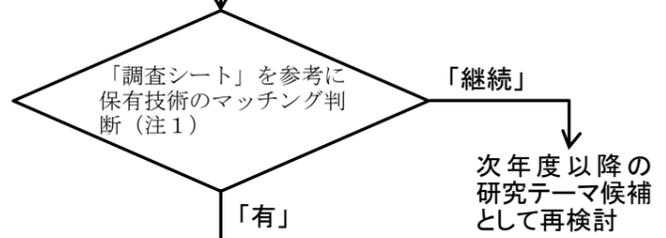
- ◎ : 国内先行プラントでの適用
- : 国内での実績あり
- × : 国内での実績なし

【保有技術とのマッチング】



**4 県内企業が保有する有望な技術を抽出**

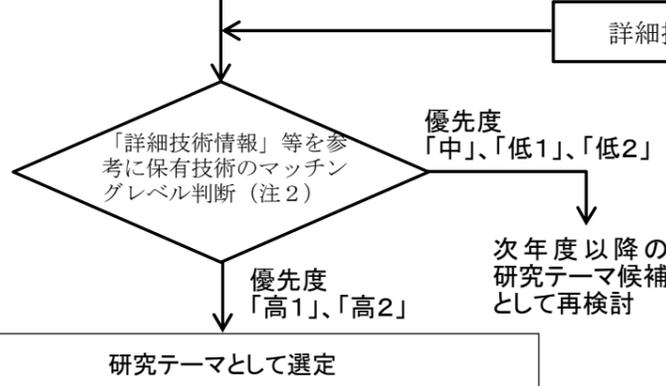
【一次スクリーニング】



(注1)一次スクリーニングにおける保有技術のマッチング判断  
**「有」**:現時点で課題、ニーズの解決に繋がる研究開発を実施できる可能性が有り  
**「継続」**:現時点で課題、ニーズの解決に繋がる研究開発を実施できる可能性が非常に低い

**1 中長期的課題の観点で、研究テーマの実現性を再評価**

【二次スクリーニング】



(注2)二次スクリーニングの技術のマッチングレベル  
 ・一次スクリーニングで研究開発の可能性が「有」とした技術に対し、「①研究開発の実現性」、「②研究開発の効果」の相対評価結果に基づく研究開発の優先度を示す。(二次スクリーニングの総合評価表 参照)  
 ・優先度「高1」>「高2」>「中」>「低1」>「低2」

【二次スクリーニングの総合評価表】

② 研究開発の効果	「やや高い」	優先度「中」	優先度「高2」	優先度「高1」
	「中間」	優先度「低1」	優先度「中」	優先度「高2」
	「やや低い」	優先度「低2」	優先度「低1」	優先度「中」
		「やや低い」	「中間」	「やや高い」
		① 研究開発の実現性		

実現性の評価においては「短期での開発」に限定せず、中長期的に成果が期待できる可能性が高いものについても選定する。

【平成 29 年度研究テーマ選定にあたっての考え方】<sup>(注)</sup>

平成 29 年度研究テーマ選定にあたっては、第 3 回検討会における議論等を踏まえ、以下の考え方で取り組む。

- 1 第 2 回検討会において、研究開発の実現性・研究開発の効果をもとに研究テーマとして選定しなかったテーマを、中長期的課題の対象となるかという観点で再選定する。  
→研究開発効果の高いテーマについてその実現性を再評価する。
- 2 他社の検討状況等も参考に、全体を通して新たに追加となる課題があれば抽出する。  
→先行プラント等の調査を行い、新たな課題と解決案を整理。これをベースにマッチング作業を実施する。
- 3 第 1 回検討会において検討対象分野に選定しなかった技術分野からテーマを抽出する。  
→現段階では研究開発に繋げる課題、ニーズ等が明確ではないため、引き続き情報収集に努める。
- 4 県が育成を推進する県内企業が保有する技術について、廃止措置に必要な技術分野の適用の可能性を検討する。

(注) 第 4 回廃止措置研究に係る検討会資料「平成 29 年度における研究テーマの選定について（中長期的課題への対応を含む）」より抜粋